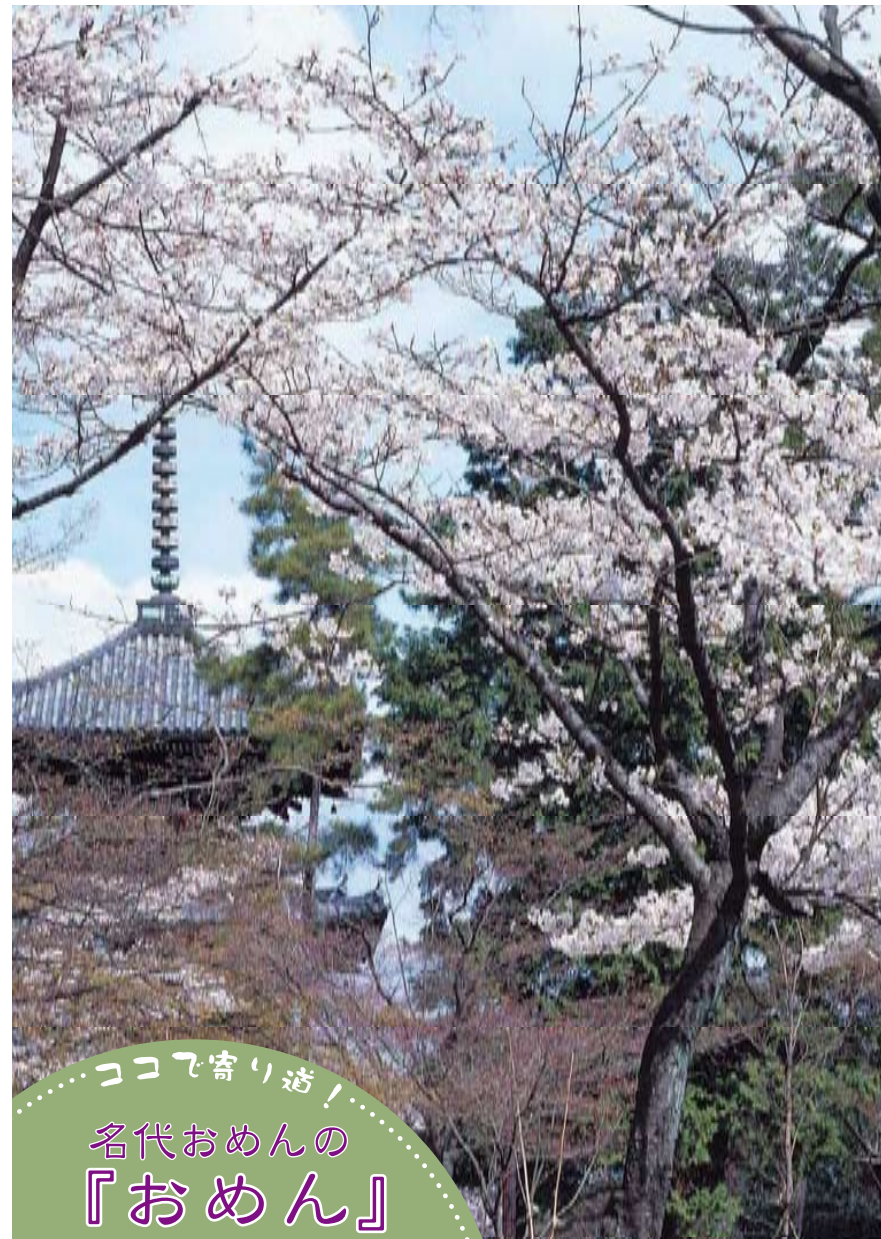




ココで寄り道！

名代おめんの『おめん』

銀閣寺の名物といえば「おめん」おめんとはつけ麺のことで、昆布と鰹をたっぷり使ったつゆに、薬味や季節の野菜を入れて食べる。



お問い合わせ:075-771-8994

(てつがくのみち)
哲学の道
大正ロマン溢れる京の小道

哲学の道は銀閣寺橋から若王子橋まで伸びる約2キロの小道のこと。季節毎に様々な表情を見せてくれる名所ですが、その中でも春の美しさは格別です。疏水沿いに咲くおよそ300本の桜は日本画家である橋本関雪の夫人によって植えられたもの。「関雪桜」と呼ばれるこの桜には、関雪が多くの作品を生むこととなったこの土地や彼の作品を認めてくれた人達への感謝の気持ちが込められています。

- 住所:京都市左京区銀閣寺道より鹿ヶ谷若王子橋まで
- 交通:市バス銀閣寺道より徒歩すぐ

 Access
銀閣寺観光駐車場すぐ横

銀閣寺エリア

(しんにょどう)
真如堂

通が行く、江戸時代からの桜の名所

知る人ぞ知る桜の名所が哲学の道から少し離れたところにある真如堂。正式名は「真正極楽寺」ですが、本堂の真如堂という名前で慕われています。見どころは何といっても徳川家光の乳母 春日局お手植えの「たてかわ桜」。多くの観光客が見過ごしがちですが、その美しさは江戸時代に刊行された「都名所図会」で紹介されたほどです。また境内には三重塔や開山堂など格調高い建物がたくさんあり、訪れる人を魅了しています。

- 住所:京都市左京区浄土寺真如町82
- 電話:075-771-0915
- 拝観時間:9時～16時
- 拝観料:500円
- 休み:なし
- 交通:市バス真如堂前より徒歩5分

 Access
銀閣寺観光駐車場から京風情を満喫できる小道を約20分歩くと到着



春の京都は艶やか。それは鮮やかに色づいた桜が街を彩るからです。
京都では早くから春を愉しむイベントとして親しまれてきました。
それだけに京都人にとって桜は暮らしの一部であり、心の風景と言えるでしょう。
しかし、毎年花見に行くのは誰もが知っている定番スポットばかりではないでしょうか。
もちろん名所には絢爛豪華な美しさがありますが、桜の魅力はそれだけではありません。
多くの花見客でにぎわうスポットのそばで、ひっそり咲く可憐な桜もあるのです。

都人だけが知っている

京の
桜女歩き



(おかざきそすい)
岡崎疏水

水と染井吉野との競艶美

岡崎公園周辺は人気の春の散策コースですが、中でも訪れる人を魅了するのが疏水の沿道に咲く染井吉野(そめいよしの)です。陽の光を受けた疏水の水面と淡い桜色が重なり合う景色は、ここだけでしか見ることの出来ない鮮やかな眺めです。お勧めは岡崎公園近くにある蹴上インクラインの桜並木。舟を移動させるレール跡の坂道に舞う桜の花びらは、まるで映画のワンシーンのようです。

〈岡崎公園〉
■住所:京都市左京区岡崎円勝寺町
■交通:市バス動物園前より徒歩すぐ

Access

岡崎公園駐車場より徒歩すぐ

っつて寄り道!
(かのうしゅうじゅうあん)
叶匠壽庵の
『草の餅』

少し歩き疲れたら、永観堂の近くに佇む純和風の茶室でお茶とお菓子の一服。桜を眺めながら『草の餅』を外で食べるのもまた良し。



お問い合わせ:075-751-1077

(こんかいこうみょうじ)
金戒光明寺

しっとり愉しむ大人の桜

『黒谷さん』と京都の人から呼ばれて親しまれている金戒光明寺。ここは京都通なら1度は行っておきたい大人の花見どころです。お寺の歴史は古く、法然上人が比叡山を降りて念仏道場として開いたのがはじまり。春は桜、秋は紅葉が境内を彩り、風情溢れる景色が広がります。その趣ある佇まいは時代劇の撮影にも使われるほど。街の喧噪から離れてゆったりと桜を眺め、歴史ロマンにひたるのもいいのでは。

■住所:京都市左京区黒谷町121
■電話:075-771-2204
■拝観時間:9時～16時(入場は15時30分まで)
■拝観料:無料
■休み:なし
■交通:市バス岡崎道より徒歩5分

Access

岡崎公園駐車場から解放感溢れる街なみを約10分歩くと到着



水面に揺れる風流桜 (だいかくじ)

大覚寺

まるで絵巻物に出てくるような幻想的な大覚寺の桜。嵯峨天皇の離宮だったこのお寺は「嵯峨御所」と呼ばれる通り、寝殿造りを思わせる雰囲気にあります。そして庭に佇む中国の洞庭湖をモデルにして造られた大沢池(おおさわのいけ)は、花と月の名所として知られています。嵯峨天皇がこよなく愛した、ゆらゆらと揺れる池の水面に映し出される山桜は一見の価値あり。

■住所:京都市右京区嵯峨大沢町4
■電話:075-871-0071
■拝観時間:9時～17時(入場は16時30分まで)
■拝観料:500円
■休み:なし
■交通:市バス・京都バス大覚寺より徒歩すぐ

Access

嵐山観光駐車場から観光客で賑わう表通りを約15分歩くと到着

っつて寄り道!

(つるやまとおや)

鶴屋寿の
『さく(く)ら餅』

創業以来60年近く、桜餅一筋。創業以来変わらぬ味を頑固に守り続けている。本来桜餅は春の季節商品だが、このお店では季節感を出さないようにあえて白にし、一年中食べてもらえるようにできている。



お問い合わせ:075-862-0860

(とげつきょう)

渡月橋

自然が織りなす壮大な桜景色

華麗でダイナミックな桜を見るなら嵐山がお勧めです。山ひとつが桜色に染まる様はまさに自然がつくる芸術。嵐山の桜は、もともと紅葉の名所だったこの地に後嵯峨天皇が吉野桜を移植したのがはじまりとされています。当時から花見どころとして貴族の間で人気を呼び、今では全国から多くの人々が訪れる人気スポットに。特に嵐山の中心にある渡月橋からの眺めは日本でも随一の美しさです。

■住所:京都市西京区嵐山
■交通:JR嵯峨嵐山駅より徒歩15分、京福電車嵐山駅、阪急電車嵐山駅より徒歩5分

Access

嵐山観光駐車場よりすぐ





クランクアップした後は、いつもスタッフ勢揃いで集合写真

映画はこうして作られる！

1本の映画が製作されるには数多くの過程と、それぞれ専門の知識を持ったスタッフが集まり完成します。またその工程も数多く、おおまかには企画・製作準備・撮影・仕上げ・完成といった流れがあるのです。

その製作期間は作品によって異なりますが、およそ半年以上かけて製作されます。これだけの期間がかかるのは、撮影する場面にリアリティを出すため、質の高いものを作るため各場面の細かな所までをしっかりと作りこんでいくためです。

そのため全ての作業が完全分業制で行われています。撮影・照明・美術など約20部門からなるスタッフがそれぞれの場面で使用する機材や舞台などの大掛かりなものから衣裳・小道具など細かなものまでを作り上げていきます。

その規模はテレビドラマだとおおよそ20名〜30名程度、映画になると50名、100名以上のスタッフが編成され製作に携わります。

このようにして、様々な人の思いが詰まった1本の映画が出来るのです。

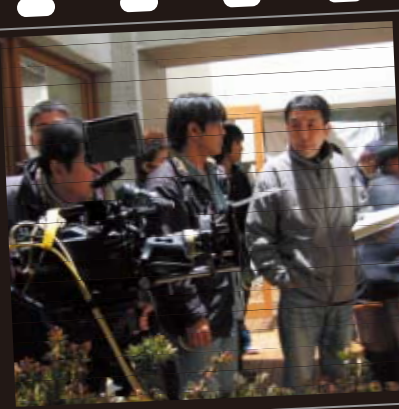


「映画の街」京都を映し出す 東映京都撮影所

歴史ある寺院や建物、情緒ある町並みが数多く残る京都。そのため昔からドラマや映画の撮影に、数多く使われてきました。今回は、その中心ともいえる東映京都撮影所に行ってきました。

（監督 石川 郎） 毎日が刺激の連続

石川さん（以下、石川）「撮影所では新しい映画やドラマを作る度に、スタッフやチームが毎回のように変わるんです。スタッフが変われば、当然出来上がりの映像も変わってきますし、いつも新しい環境で製作するので毎日が新鮮で刺激的ですね。」



テレビの影響

深沢「あるドラマの話で京都駅に『舞妓橋 まいごばし』という架空の待ち合わせ場所を作ったのですが、放送終了後に駅へ問い合わせが殺到したそうです（笑）」



（照明 安藤清人） 勝新太郎と照明

安藤さん（以下、安藤）「昔は役者さんに今よりも強い照明を当ててな。『座頭市』って映画あったやろ？あれで勝新さん俳優 故勝新太郎が目の見えへん役を演じてたんや。目えつぷつとたら次にどこまで動いたら見ええか分からんやろ？それで照明から出る熱を頼りにしてたらいいわ。目えつぷつても分かるぐらい熱かったんやろなあ（笑）。それから『バルトの楽園』がくえん」で海外の役者さんを撮影していた時の話や。役者さんの顔に照明当てたらな、「眩しい」て言いやるねん。海外の人は目の色素が薄いやろ？そこから強い光に弱いんやな。」

監督の仕事

石川「大勢の製作スタッフをまとめ上げるのが監督です。日々、スタッフから良いアイデアを引き出すかそしてそのアイデアを映画、ドラマのイメージやテーマに合うように考えながら、一つの流れに導いていきます。」



（カメラマン 深沢伸行） 季節感をだす苦労

深沢さん（以下、深沢）「冬場に夏のシーンを撮る時、俳優さんの口から白い息が出てNGになるので、俳優さんに氷をなめてもらいます。すると口の中が冷えて白い息が出なくなるんです。呂律がまわらなくなると台詞をかつむ時もあるけど（笑）」



プロの技

安藤「プロのシーンでもスタッフのプロの技が注ぎ込まれるのが映画。それは照明（つ）とても重要なことなんや。お客さんが、役者さんの演技に見入ってもらおうよう画面を違和感なく自然に見せるのが裏方である照明の技や。それと、映画やドラマはみんなで作るもんや、いうことを忘れたらあかん。お互いの意見をぶつけ合いながら、一つの作品が出来上がるんや。」



緊迫した空気が張りつめる撮影風景



映画が「総合芸術」と言われる理由。

インタビューで話してもらったように、その国の文化や時代背景が1本の映画に込められているからです。

また映画作りに携わる現場のスタッフ1人1人のプロフェッショナルな思いが、一つの映画にむかって注ぎ込まれ形になっている。それが何よりの証しだといえるでしょう。

明日から映画の見方が少し変わるかもしれませんね。

石川「郎（いしかわ ちろう）：監督

京都地検の女「八丁堀の七人」シリーズを手掛ける。
第2回京都映画奨励賞受賞。

深沢伸行（ふかざわ のぶゆき）：撮影

「シン」シリーズの大森樹監督の企画映画「明くるま」の恋を」や「IZOL」の撮影を手掛ける。

安藤清人（あんどう きよひと）：照明

深作欣二監督の「浦田行進曲」おもちゃや「長崎のついで」など数多くの名作の照明を手掛ける。

バルトの楽園

（あらすじ）

第2次世界大戦中の日本。

当時の日本には戦争捕虜の収容所があった。1914年に中国・青島（天津）を攻略した日本軍は、ドイツ兵4700人を各地にある俘虜収容所へと送還していった。

そこで彼らは劣悪で過酷な日々を過ごすことになる。そんな徳島県鳴門市にある坂東俘虜収容所は松江豊寿所長の指揮の下、捕虜たちに寛容な待遇をしていた。地元民との交流やパンを焼いたり、ビールを飲む事が許された収容所生活にドイツ人捕虜達は生きる喜びを見いだしていく。

また硬く心を閉ざしていた者達も、所員や地元民の暖かい心にはだされ、徐々に心を開く様になる。

それから数年後の、1918年11月に休戦条約が締結され、第2次世界大戦が終結する。

開放され、自国に戻る事を許されたドイツ人達は、松江所長や地元民に對する語り尽くせぬ感謝の思いを込めて日本で初めて「交響曲第9番 歓喜の歌」を演奏する。

歓喜と拍手の嵐が、奇跡的なこの美しい人間讃歌が、祖国に届かんばかりに坂東の空に響き渡る。

2006年6月
全国東映系ロードショー!!

監督／出口昌伸 脚本／古田 求

松平 健 ブルーノ・ガンツ

阿部 博 國村 隼 大後 寿々花
板東 英二 市原 悦子 高島 礼子
オリバー・ファッツ コステリア・ウルマン

